

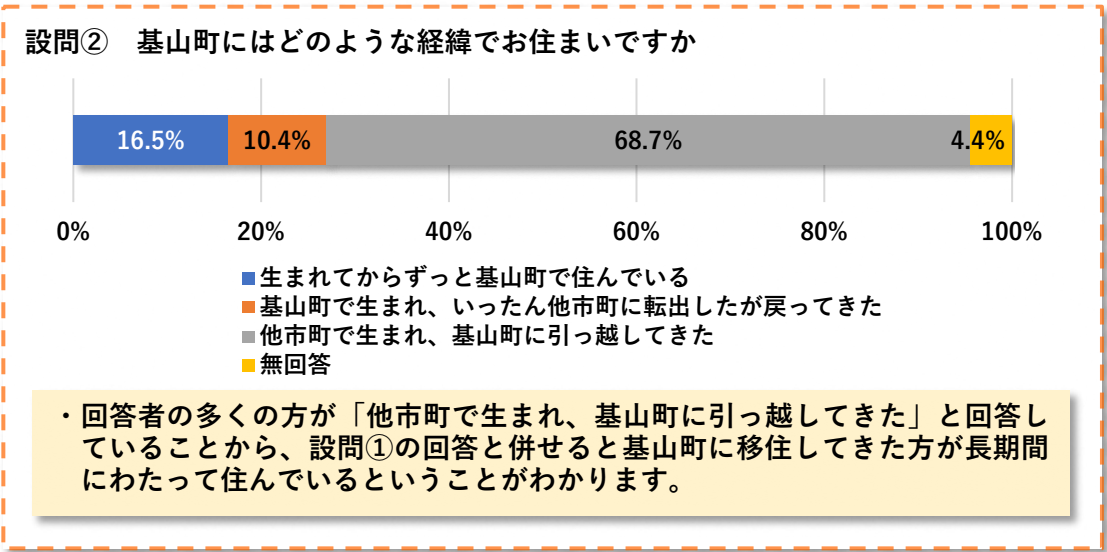
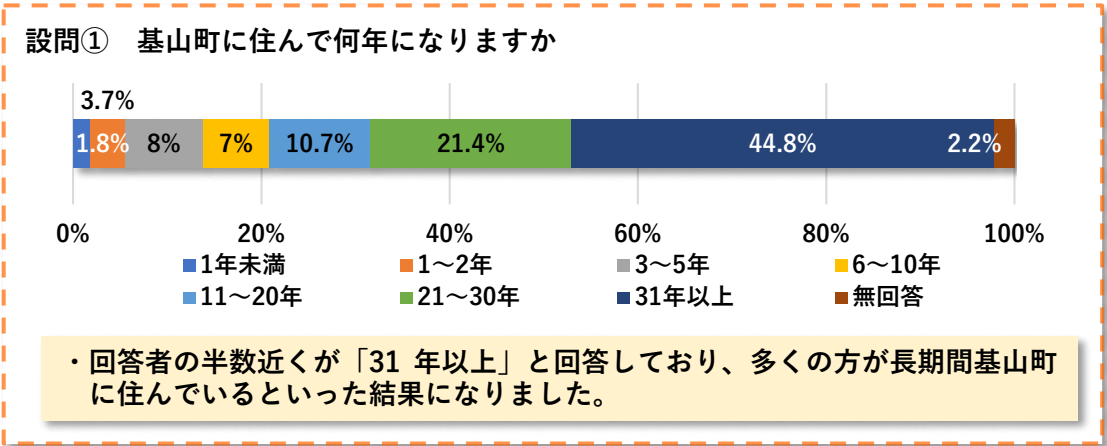
2－8. 基山町民の意向状況（町民アンケート）

【調査名称】 基山町都市計画マスタープラン策定にあたっての町民アンケート

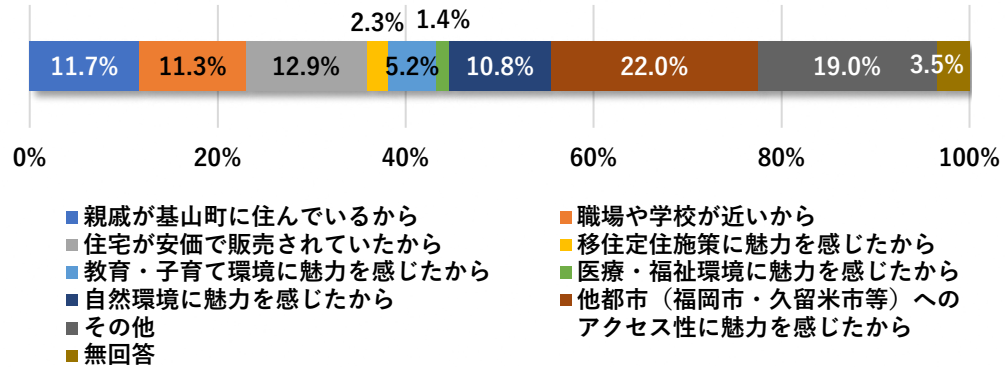
【調査方法】 調査票の郵送ならびに Web での実施
（町広報、町ホームページ、町公式 LINE での周知）

【回答者及び回収率】 紙面版 ： 777 名/1,850 名（回収率：42.0%）
Web 版 ： 91 名
合計 ： 868 名

アンケート結果は以下の通りです。（抜粋）



設問③ 基山町に引っ越してきた経緯について教えてください



- ・「他都市（福岡市・久留米市等）へのアクセス性に魅力を感じたから」が最も多く、大都市への近接性は基山町を移住先として選ぶ際に重視されることがわかります。
- ・その他、「親戚が基山町に住んでいるから」や「職場や学校が近いから」、「住宅が安価で販売されていたから」、「自然環境に魅力を感じたから」がそれぞれ同程度の割合を占めており、地価や環境などの要素も移住先として選ばれるポイントであることがわかります。



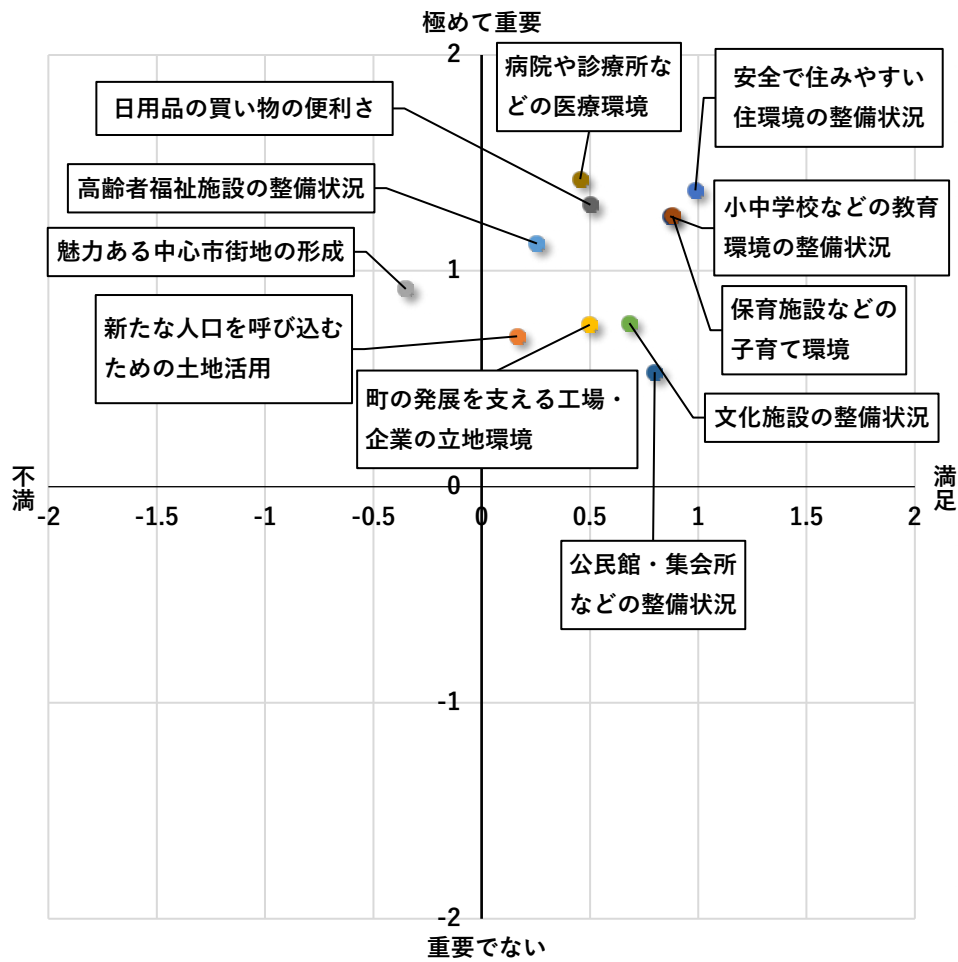
設問④ 基山町の生活環境についての満足度・重要度について教えてください

※「満足」、「きわめて重要」：2点、「やや満足」、「重要」：1点

「やや不満」、「あまり重要でない」：-1点、「不満」、「重要でない」：-2点として

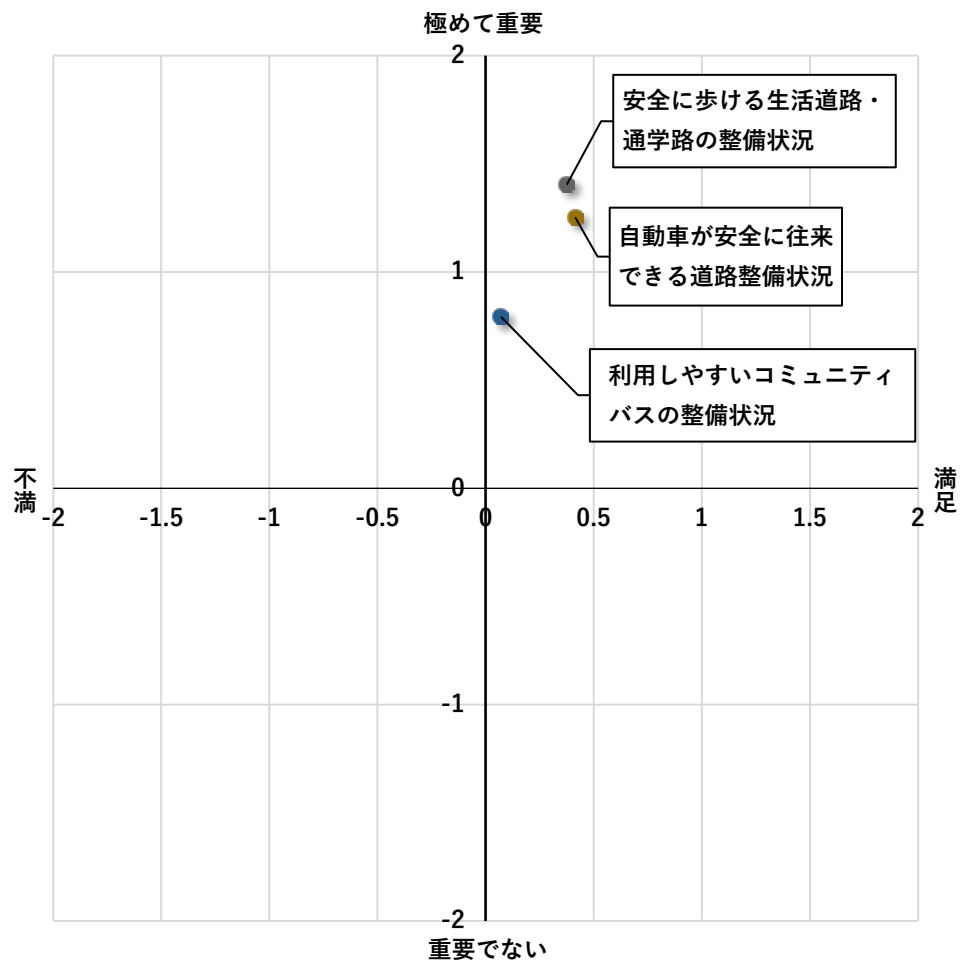
回答者数で割り替えし、加重平均値を算出

<土地利用・市街地整備について>

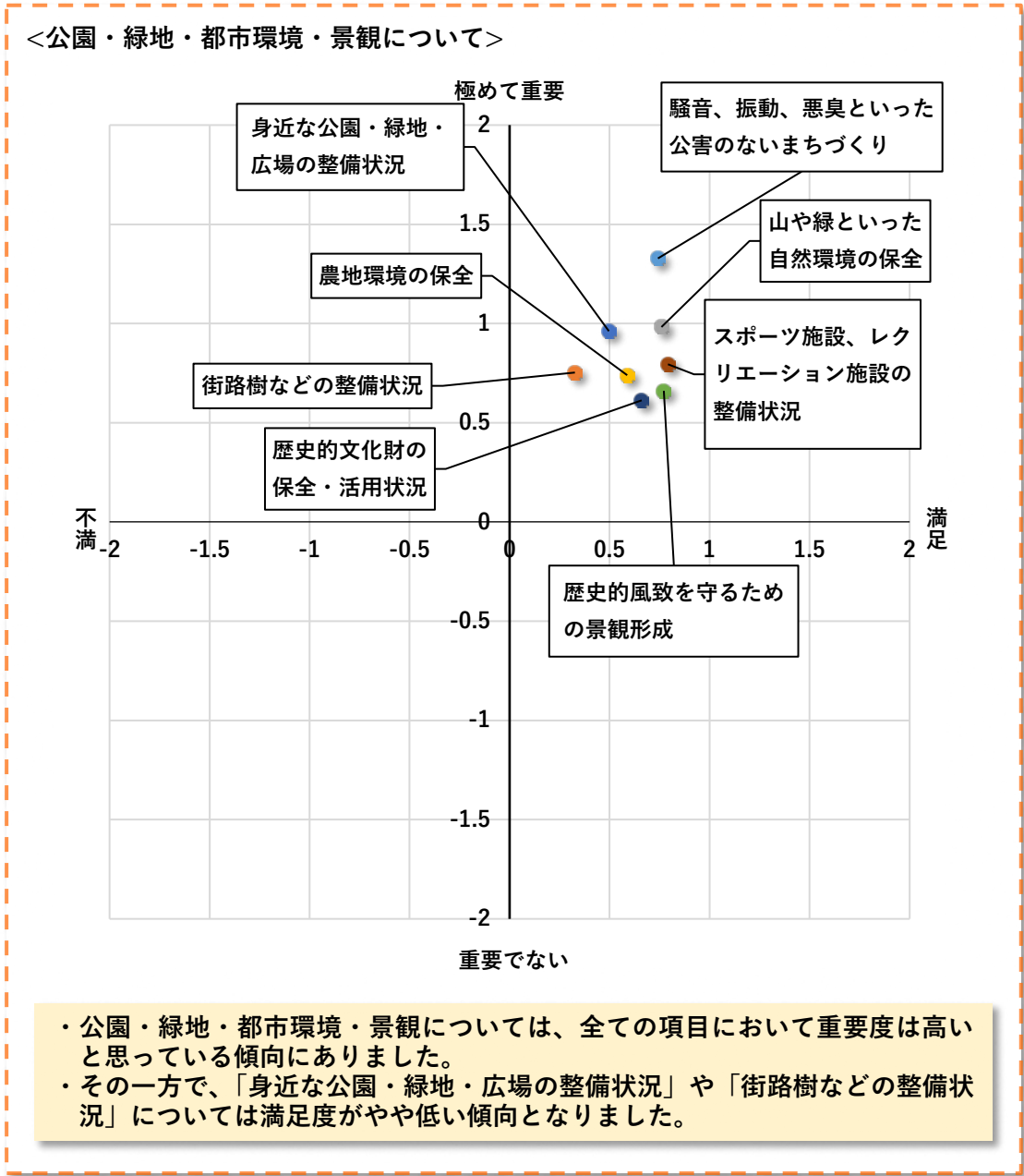


- ・土地利用、市街地整備については、いずれの項目も重要と思っている傾向にありました。
- ・満足度については、「新たな人口を呼び込むための土地活用」や「高齢者福祉施設の整備状況」の2項目がやや低い結果となったほか、「魅力ある中心市街地の形成」については不満と思っている住民がやや多い結果となりました。

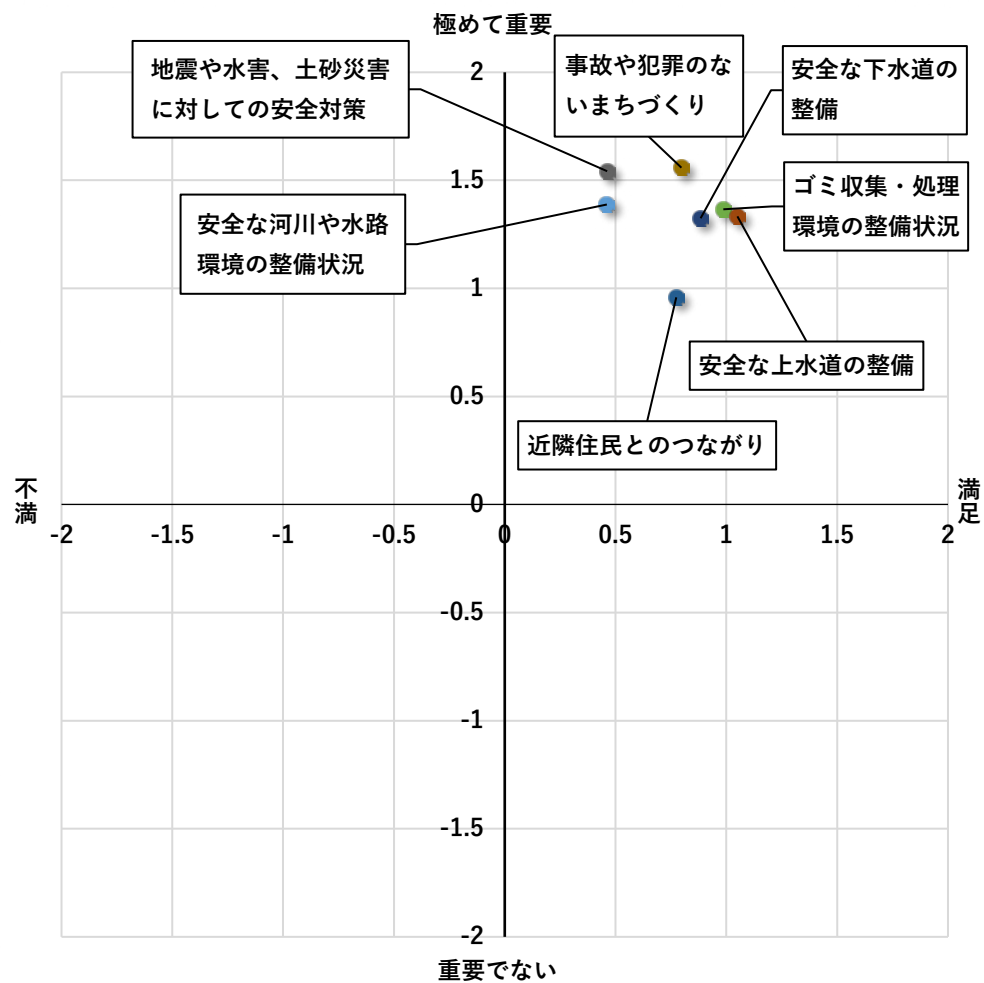
<道路・交通体系について>



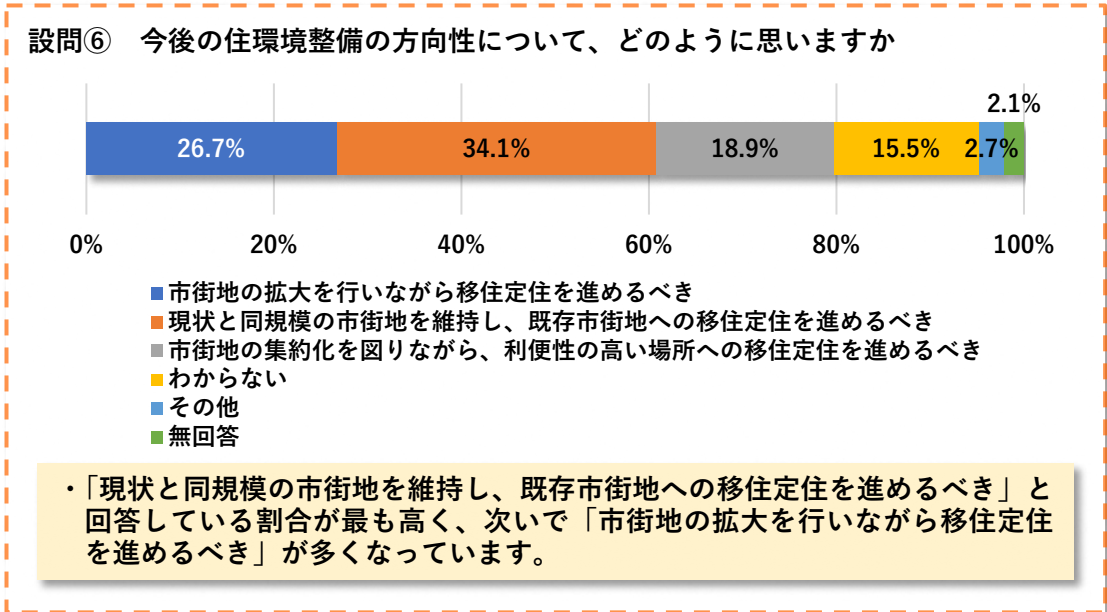
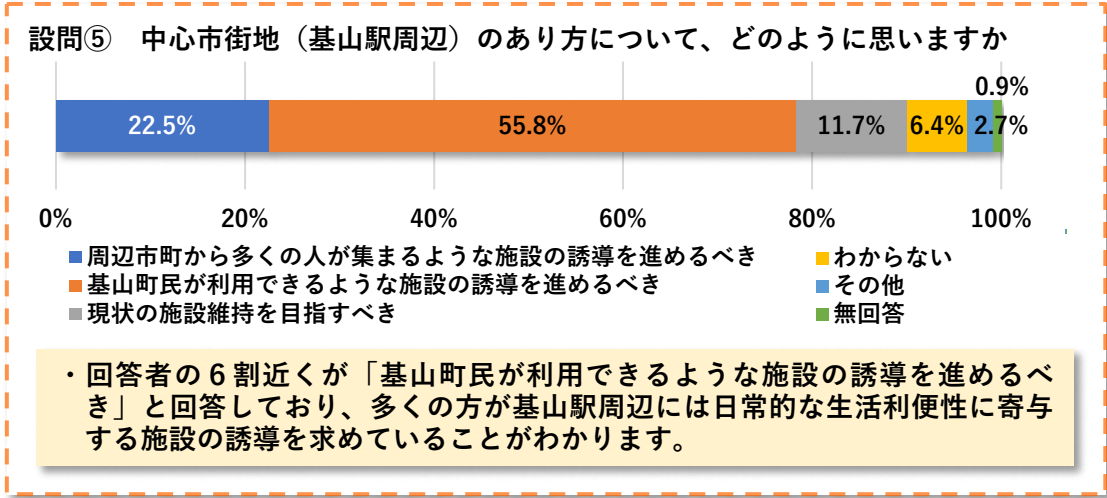
- ・道路・交通体系については、3項目とも重要度は高いと思っている傾向にありました。
- ・その一方で、満足度についてはいずれの項目もやや低い結果となりました。



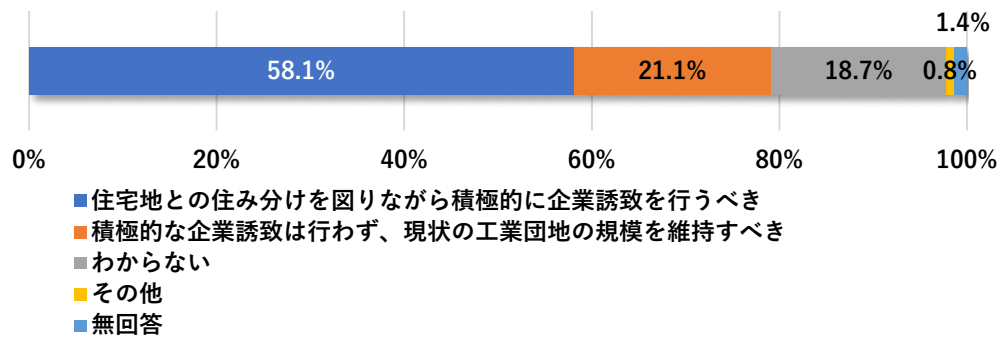
<その他施設、防災・防犯について>



- ・その他施設、防災・防犯については、全ての項目において重要度は高いとされている傾向にありました。
- ・その一方で、「安全な河川や水路環境の整備状況」や「地震や水害、土砂災害に対する安全対策」については、満足度がやや低い傾向にありました。

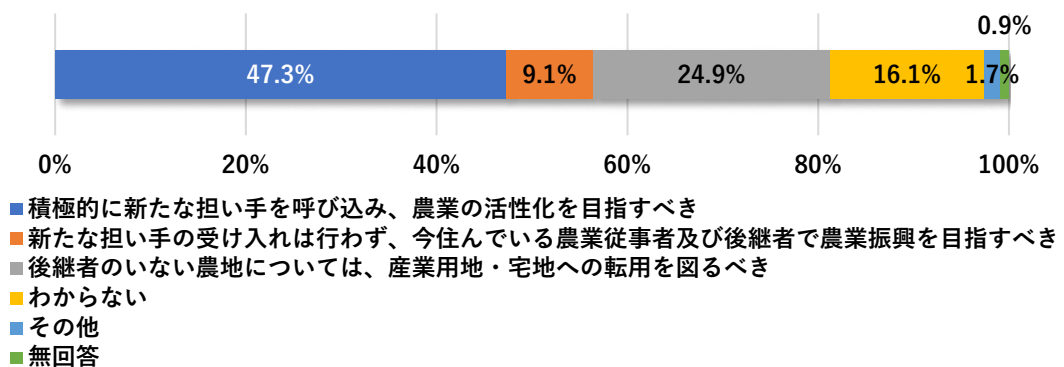


設問⑦ 今後の工業環境整備の方向性について、どのように思いますか



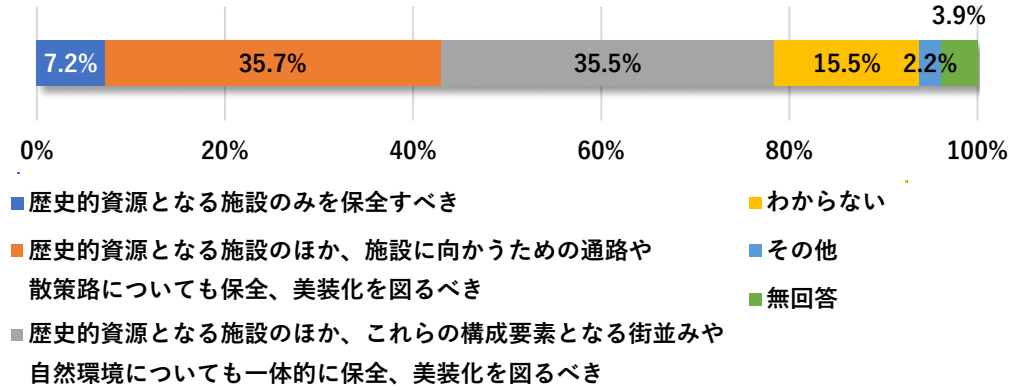
・回答者の6割近くが「住宅地と住み分けを図りながら積極的に企業誘致を行うべき」と回答しています。

設問⑧ 今後の農業環境整備の方向性について、どのように思いますか



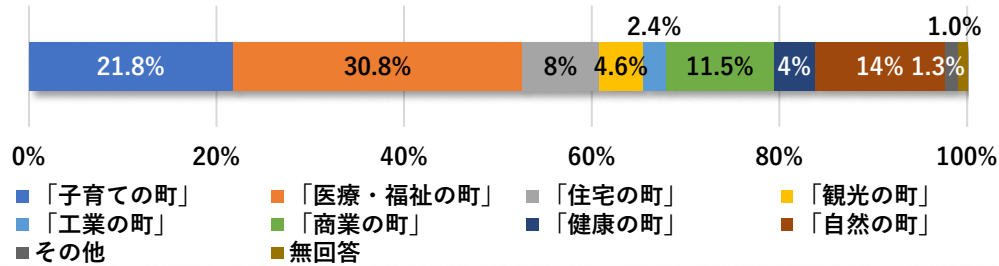
・回答者の半数近くが「積極的に新たな担い手を呼び込み、農業の活性化を目指すべき」と回答している一方で「後継者のいない農地については、産業用地・宅地への転用を図るべき」という回答が一定数ありました。

設問⑨ 町内にある歴史的資源を活かすための方向性について、
どのように思いますか



- ・「歴史的資源となる施設のほか、施設に向かうための通路や散策路についても保全、美装化を図るべき」「歴史的資源となる施設のほか、これらの構成要素となる街並みや自然環境についても一体的に保全、美装化を図るべき」という回答が全体の7割以上を占めています。
- ・このことより、多くの方が歴史資源だけでなく、これらに関連する施設の保全や美装化を求めていることがわかります。

設問⑩ 将来、基山町がどのような町になっていると良いですか



- ・「医療・福祉の町」が最も多く、「子育ての町」が次いで多い結果となりました。

2-9. 基山町民の意向状況（中学生アンケート）

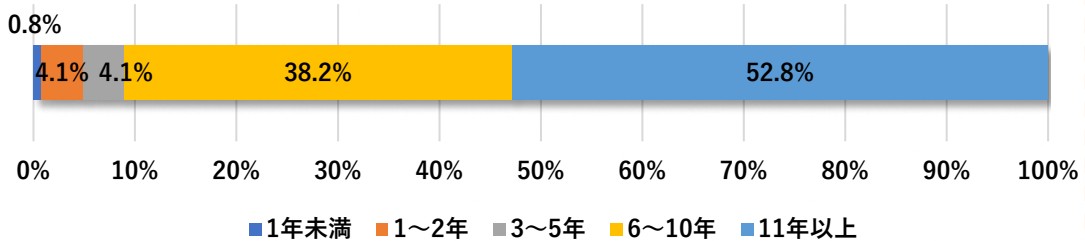
【調査名称】 基山町都市計画マスタープラン策定にあたっての中学生アンケート

【調査方法】 基山中学校 2 年生を対象に調査票を配布

【回答者数】 123 名

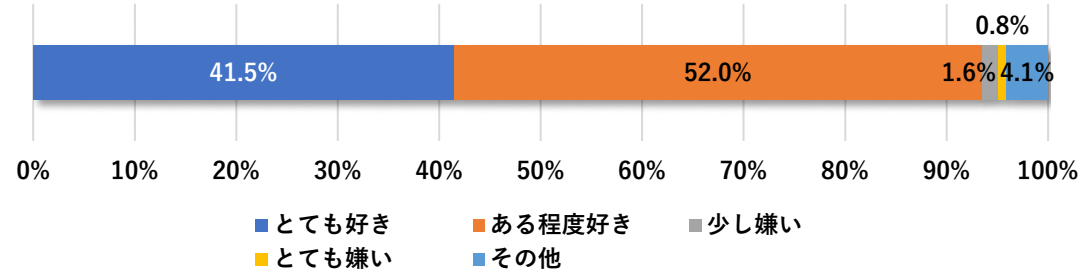
アンケート結果は以下の通りです。（抜粋）

設問① 基山町に住んで何年になりますか

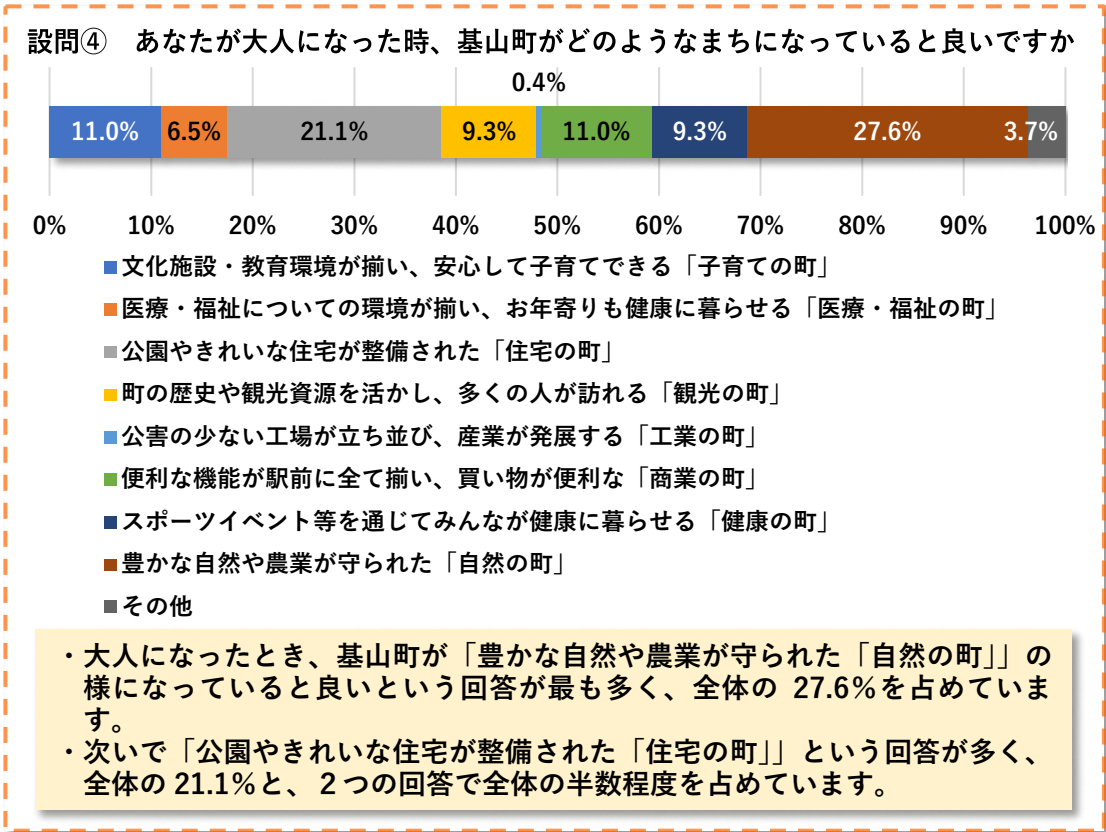
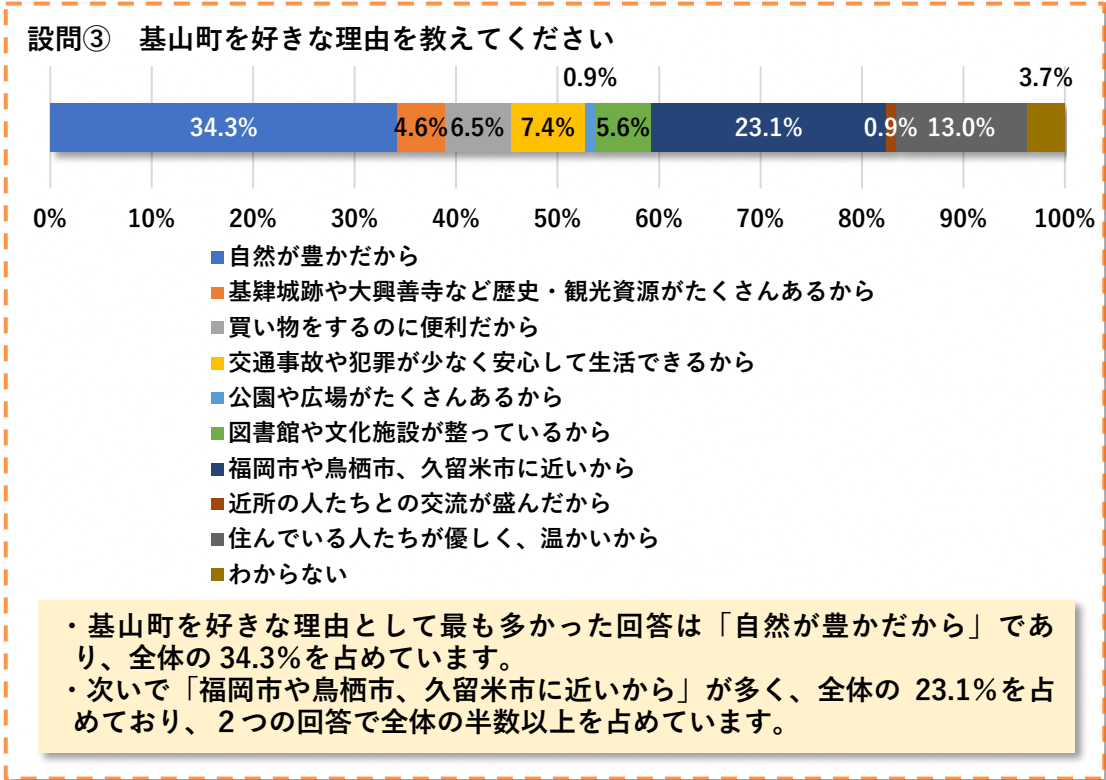


- ・回答者の半数が「11 年以上」と回答しており、幼少期からずっと基山町に住んでいる人は全体のおよそ半数程度ということがわかります。
- ・「6～10 年」と回答した人が全体の 4 割近くを占めているほか、町民アンケートでも「他市町で生まれ、基山町に引っ越してきた」と回答した人が多数を占めていたことから、親と一緒に基山町に引っ越してきた人も一定数いることがわかります。

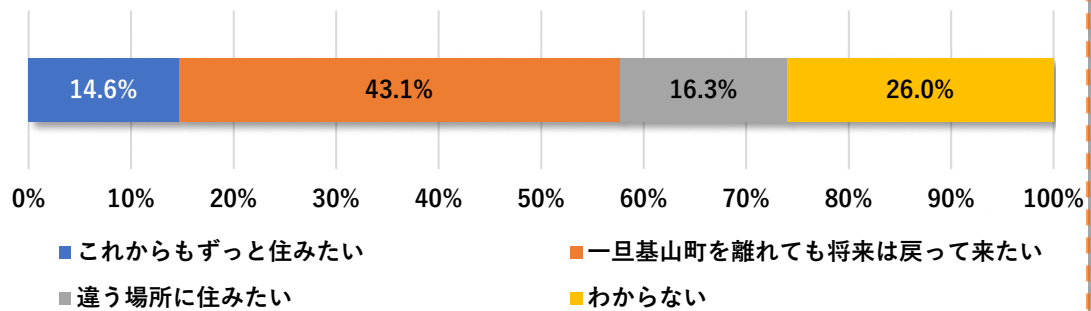
設問② あなたは、基山町のことが好きですか



- ・回答者の 9 割以上が、基山町のことが好きと回答しています。



設問⑤ あなたはこれからも基山町に住みたいですか



・「これからもずっと住みたい」もしくは「一旦基山町を離れても将来は戻って来たい」と回答した割合が6割近くを占めています。



2-10. まちづくりにおける課題の整理

2-10-1. 人口動向から見た課題

便利な場所への移住定住促進により、より住みたくなる環境形成が必要

社人研が算出した人口推計（平成27年国勢調査時点）では、将来的に人口が減少する見込みとなっている一方で、平成28年より移住定住施策に重点を置いた結果、ここ数年の実績（住民基本台帳）では平成29年以降横ばいに推移しています。

アンケート結果を見ると、回答者の7割近くが他市町で生まれ、基山町に移住してきているほか、10年以上という長い期間居住されている方が多いという結果でした。

その一方で、移住者の呼び込みを行うために無秩序に市街地を拡大すると、既存市街地の低密度化や空洞化が懸念されます。

そのため、鉄道駅周辺などの利便性の高い箇所への人口誘導を図ることによって、将来的にも移住先として選ばれる環境形成が必要です。

増加する高齢者が安心して暮らせるまちづくりが必要

基山町の高齢者夫婦世帯や高齢者単身世帯の増加率を見ると、周辺市よりも高い値で推移しており、将来的に高齢化がさらに進行することからこの傾向はより進むものと想定されます。

エリアごとの将来的な高齢化率を見ると、高島団地周辺では高齢化率が40～49%、けやき台では50%以上と特に高くなる見込みであることから、増加する高齢者が安心して暮らせるまちづくりを行うことが必要です。

安心して子どもを産み育てられる環境づくりが必要

進学・就職後も住み続けたい魅力づくりが必要

町内の自然増減の状況を見ると、毎年おおむね50人前後の自然減が発生しています。

社会増減の状況を見ると、平成29年以降は転入数が転出数を上回っており、転入者の半数以上が若者・子育て世代となっています。

その一方で、若い世代の転出も多いため、将来的に子どもの数は減少していく見込みです。

そのため、安心して子どもを産み育てられ、進学・就職後も住み続けたい魅力作りが必要です。

2-10-2、土地利用状況から見た課題

利便性の高い箇所への移住定住促進を目的とした都市基盤整備が必要

住宅着工や宅地取得については市街地縁辺部でされている一方で、中心市街地である基山駅周辺は宅地開発が可能な低未利用地や住宅の流通が少ないことから、住宅着工や取得があまりされていません。

基山駅やけやき台駅から1km 圏内を見ると、都市的な土地利用を抑制する市街化調整区域に指定されている箇所があり、住宅開発の需要があるものの宅地の整備ができません。

そのため、公共交通利便性の高い箇所において、住宅の立地について検討し、利便性の高い箇所への居住を誘導することが必要です。

子どもを連れて遊ぶことができる公園整備が必要

町内においては、小規模な児童公園が各所に整備されていますが、アンケート調査においては、「子どもを連れて遊べる公園が欲しい」といった意見が目立ちました。

公園の機能向上は良好な子育てを行うに当たっての重要な施設であり、子育て世代の移住定住の促進につながることから、公園整備を通じて子育てしやすい環境整備が必要です。



既存工場の維持、新規工場の誘致による雇用の場の維持、拡大が必要

町内には基山グリーンパークなど多くの工業団地が立地しており、これまで構築してきた流通・工業機能の維持を図る必要があります。

また、アンケート調査においても、「住宅地と住み分けを図りながら積極的に企業誘致を行うべき」といった意見が全体の6割近くを占めています。

国道3号や県道沿線等交通利便のよいエリアにおいては、既存工場の維持や新たな企業の誘致によって、雇用の場の維持拡大が必要です。

2-10-3. 公共交通の利便性・持続可能性から見た課題

公共交通利便性の高い箇所への人口誘導が必要

通勤や通学の動向を見ると、JR 鹿児島本線の利便性が高いことから、基山町から町外に通勤・通学している人が多い一方で、町外から基山町に通勤・通学している人も多い状況です。

その一方で基山駅周辺は将来的に低密度化が進む見込みであり、これらの箇所への人口維持によって公共交通の利便性維持を図る必要があります。

町内主要箇所から高速基山停留所に容易にアクセスできる環境づくりが必要

九州自動車道基山パーキングエリアは九州管内を運行する高速バスの停留所（高速基山停留所）が立地しています。高速基山停留所には九州各地にアクセスする多くの路線が停車し、片道 100 本/日以上運行しているバス路線もあります。

九州管内に高速バスで容易にアクセスできる環境は基山町の特色の一つであり、広域的な移動ができる拠点を最大限活用するためには、町内の主要拠点から高速基山停留所に容易にアクセスできる環境づくりが必要です。



町内移動を目的とした公共交通の充実による高齢者の移動手段確保が必要

町内移動を目的とした公共交通手段として、コミュニティバスがありますが、令和2年12月に実施した「コミュニティバス利用者満足度調査」においては、高齢者が買い物や通院といった目的で日常的に利用している傾向がありました。

将来的に高齢者人口は増加する見込みであることから、将来的にコミュニティバスの需要は増加するものと想定されますが、けやき台や、高島団地周辺等において高齢化率が特に高くなることから、将来的な高齢者人口を踏まえた公共交通の充実が必要となります。

2-10-4. 都市機能の利便性・持続可能な面から見た課題

基山駅周辺に日常生活に必要な機能の集積が必要

アンケート結果においては、基山町の中心市街地である基山駅周辺の魅力形成について不満と思っている人が多い傾向にありました。

魅力形成を行うにあたっては、他市町から多くの人を訪れるような施設ではなく、基山町民が日常的に利用できる施設を望んでいる意見が多数を占めています。

このことより、日常生活に必要な機能の集積による基山駅周辺の魅力向上が必要です。

中心市街地の拠点間連携が必要

町内の中心市街地においては、商業施設や公共施設、多世代交流施設がそれぞれ別の箇所に集積しています。

より魅力のある中心市街地を形成するためには、それぞれの施設が集積している箇所に徒歩や自転車でもアクセスがしやすい環境を整備し、拠点間の回遊性を高めることが必要です。

2-10-5. 都市基盤の整備状況から見た課題

住環境基盤の整った箇所への人口集積、高齢化の進む地区への若返り促進が必要

町内においては、多数の箇所で民間開発による良好な住環境整備が行われてきましたが、住環境基盤の整っているけやき台や高島団地は将来的に高齢者が特に増加する見込みとなっています。

けやき台が主な校区となっている若基小学校については、令和3年時点での児童数が平成13年の3割まで減少しており、町内2つの小学校の児童数に偏りが生じています。

このことより、住環境基盤の整った箇所への人口集積を図るとともに、若者世代の居住誘導を図ることによって、高齢化の進む地区の若返り促進を図る必要があります。

2-10-6. 都市環境の面から見た課題

農業の担い手確保による農業環境の維持が必要

農地環境は基山らしさを象徴する景色の一つであり、良好な住環境がありながら気軽に田園環境に触れ合えることは、移住先として選ばれるためにも重要なポイントとなります。

そのため、農業の担い手確保を図りながら、農業環境の維持を図ることが必要です。

環境保全、災害に強いまちづくりが必要

基山町の西側には豊かな森林があり、河川の水質も良いことから比較的住宅地に近い箇所でもホテルを見ることができる場所があります。

また、森林の生い茂っている箇所は土壌が木の根で固定されていることから、大雨が降った際にも土砂の流出を防止する機能があります。

アンケート結果において、基山町は災害が少なく住みやすいまちであるといった意見が多数寄せられましたが、従来の環境保全による対策に加え、近年激甚化する災害に対応するためのまちづくりが必要となります。

農地から産業用地・宅地への転用について検討が必要

地域のポテンシャルを活かすために、農地から産業用地や宅地への転用を望む意見が多数寄せられた地域がありました。

これらの地域のうち、農業従事者の高齢化等に伴う担い手不足により、持続的な営農が困難な農地については、地域のポテンシャルを踏まえた有効的な土地利用の検討が必要です。

2-10-7. 防災上の安全性から見た課題

避難所の機能向上による安全性確保が必要

避難所の周知による安全性確保が必要

町内において想定しうる最大規模の降雨があった際には、基山駅以南のほとんどのエリアで浸水リスクが指摘されています。

高島団地周辺は浸水リスクが指摘されている一方で近隣に避難所が無く、最寄りの避難所である基山小学校に向かう際には秋光川と山下川を渡る必要があります。

また、第8区公民館南側においては、最寄りの避難所である基山小学校に向かう際に最短ルートではアンダーパスとなっている小倉交差点を通る必要があります。

これらの地域においては、避難所の機能向上、避難情報の周知による安全性確保が必要です。